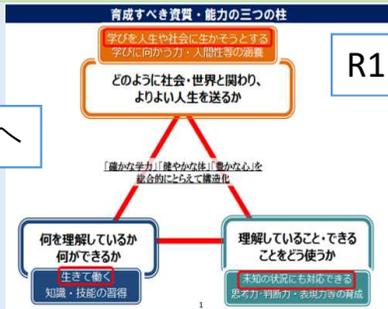


明治小に見る新教育課程実施に向けた年度をつないだ取組を作り出したサイクルに関する一考察

前年度の成果と残された課題、改善の方向性や方途について協議し、授業改善に関する取組内容について具体化・焦点化していくための協議

0 新学習指導要領3つの柱にそって目指す資質・能力などを再確認

- ◆ 学校の教育目標と目指す資質・能力の関係の再整理協議・共有
- 育成された時の姿やそのための手立てを確認
 - ✓ 改善された授業のイメージ+教科等横断的な取組で育てることを意識化
- 目標と手立ての連動共有
 - ✓ 「国語と生活・総合の関連を意識した単元配列表」の活用
→R2の取組内容・チェックに



R1 PLAN 目標から手立てまでの確認・共有 方向性合わせ

①実態や課題の整理+取組内容とチェック方法の確認

- 現状分析+課題の洗い出し
- 課題解決に向けた授業改善イメージを共有
- ✓ R1当初は新大分スタンダードの流れで設定 (めあて・課題・ひとり学び・交流・まとめ・振り返り)
- ✓ 取組チェックとして個々人の「授業改善ルーブリック」を週ごとに行なうことを共有
- ✓ 月毎に「ルーブリック」を集計し、結果を交流
- ✓ 学期末から新学期にかけて全体での検証・改善

各自の取組内容を決めて、その取組状況と効果を確認しながら歩を進めるために、**個々のチェックと相互チェック、全体チェックの仕組みを構築・共有**
 ■ 個々の取組を束ねて組織として着実に進める土台

ACTION

大きなサイクルでの検証と改善。次年度に向けて継承する点・追加・変更する点等の協議

CHECK 年度末にかけて本年度の取組と効果、残された課題等を検証

- ④ 3学期の取組の検証と合わせ、年間の取組状況と効果・現状について分析・検証
- 今後の改善の方向・方法の協議
- 目指す姿は継承しつつ、「思考・判断・表現（書くこと）」に課題があることを確認



DO →個々人の週ごと「授業改善ルーブリック」
→月毎「ルーブリック」集計、結果交流 →板書交流会

R2 PLANへ

PLAN

学校の教育目標・重点目標との連動

- ・現状の把握・問題点の明確化
- ・授業改善テーマの設定
- ・授業改善の重点と取組内容の設定
- ・取組指標の設定
- ・検証指標の設定
- ・授業改善計画の立案
- ・組織作り

5点セット 授業改善の

学校評価との連動

人事評価制度の活用 (自己目標の管理)

CHECK

■取組指標・検証指標に基づく評価

- ・取組状況の把握
- ・児童生徒の変容の把握

単元末テスト・各種学力調査
学校評価・児童生徒による授業評価
目標管理シート

DO 取組内容・取組指標に基づく実践

- ・児童生徒による授業評価
- ・研究授業・研究協議
- ・互見授業・管理職の授業観察
- ・教科部会・学年部会

DO →個々人の週ごと「授業改善ルーブリック」
→月毎「ルーブリック」集計、結果交流

土台となる仕組みによって、個々人・相互のチェックをつなげながら進め、全体チェックで取組内容を随時見直し **大中小様々なDO,CHECK,ACTIONサイクル**

CHECK 2学期に向けて1学期の取組と効果を検証

②喫緊の課題に対して取組む内容を確認 授業改善の取組内容をより具体化し、焦点化

- 授業を構成する要素と自校の目指す資質・能力の結びつきを改めて確認し、現状と重ねて分析
- ✓ 喫緊の課題「基礎・基本、主体性」について、全員で「課題の在り方」に焦点を当てた改善に取組むこと、相互チェックとして新たに「職員室内に課題の掲示」を加えること確認

DO →個々人の週ごと「授業改善ルーブリック」
→月毎「ルーブリック」集計、結果交流 →課題の工夫掲示

3学期に向けて2学期の取組と効果を検証

③授業改善の進捗と現状を重ねて分析し、課題を再確認。改善の焦点を変更するか協議・確認

- ✓ 次の課題として「考え・伝え合う」を確認し、全員で板書の構造化に焦点を当てた改善に取組むこと、相互チェックとして新たに「板書交流会」を行なうこと、「授業改善ルーブリック」を修正することを確認

ACTION